(六) Manufacturing Belt (七) Corn Belt (八) Appalachian-Ozark Region (九) Cotton Belt (十) Gulf-Atlantic Coast の十經濟地區に分け、各地域の產業、商業を解說し、その地域の要旨と問題とを附記して居る。各論に重點が置かれ、總括的な記述、殊に合衆國の經濟地理的な制約が他國に及ぼす影響に就いては、ほとんどふれて居ない事は殘念である。美くしい寫眞は兎も角として、全般及各章毎に參考とすべき文獻をあげ、興味を持つた若き學徒に、次の發展への道標を忘れない態度は、我が國の教科書と比して羨望にたえない。〔川上喜代四〕

近世探檢史

ラヂオ新書第二十二

小牧實繁著

本書は著者が屢次に亙りラヂオを通じて全國に講演せられた原稿を、今回、一括上梓せられたもので、「近世探檢史」(昭和十五年四月放送)の外、卷末に附錄として、「伊能忠敬先生」(昭和十四年五月放送)及び「蒙疆事情」(昭和十三年十二月放送)なる二篇が添へられてある。

先づ主篇の探檢史に就て見ると——

探檢史に於ては通常、便宜的に十五世紀末のアメリカ發見を以て、近世の始めとするのであるが、「近世探檢」に就て物語る場合には、若干その以前にまで溯つて考察してみる必要があるとの觀點から、本書の記述は特に十三世紀の半、マルコ・ポーロ前後の時代から始められて居る。その後アメリカ發見、アフリカ南端の廻航、マゼランの世界週航を經て十六世紀後半に及んで、歐人の大發見時代なるものは略々終末を告げるとせられる。爾來、地球上の殘餘の地帶が探檢並に科學的調査によつて漸次開明せられて行くのであるが、十八世紀と十九世紀との交、フンボルトのアメリカ探檢旅行の頃を境として、近代の科學的研究旅行が特に活潑に行はれる新時代には入つたものと考へられる。

斯やうな大體の時代的傾向を更に細分し、夫々の地域別に、探檢家の業蹟に就いて記されてある。文中の人名及び地名には悉く正確な歐文を附記して參照に便し、年代は極めて詳細である。尤大なるべき資料が手際よく纏められてあり、小册ながら、近世に於ける探檢史の概觀を得るによく、要點を知るに便利である。

探檢史は地理學發達史の一部として重視せられる關係上、從來とても地理學專攻者にとつては歐文參考書の如き乏しくはなかつた。併し乍ら此の書の序文には、現下世界史の轉換期に際し、世界を股にかけて出て行くといふ積極的な活力の發揮、正しい國威宣揚の實踐行動に於て、吾が日本の以て他山の石ともなすべきは、今日までの各國の世界進出の先驅をなした探檢の歷史であり、亜細亞にとつては餘り名譽ともならない「近世探檢史」に就て物語るのも實はかゝる考へからであるとの意味が述べられてあり、また本文末には、「徒らに歐羅巴人による世界探檢の歷史を回顧いたし、かゝる、吾々にとつては不名譽極まる歷史を物語りますだけが吾々の能であつてはならないのであります。吾々自身が大いに

奮起いたさなければならないのであります。今や時代は刻々に轉換しつゝあるからであります。否、時代を轉換せしめる力として吾々自身が大いに奮起いたさなければならない時が來てゐるのであります」と特記されてゐるのである。以て、著者の意の存するところを察知すべく、この書の使命に想到すべきである。

尙ほ本書に於ては、倫敦のアフリカ協會、王室地學協會設立の重要性に觸れられてはあるが、各國内の政治經濟的、軍事的諸背景、乃至は對外政策と、その國人による探檢調査事業との關聯性の如きに就ては論及せられて居ないのであるが、これに就ては、著者は實用的見地よりする世界各地の探檢が、世界を植民地化せんとする謀略地政學の基礎を提供した事實にも想を致して、既に數年來京都帝大地理學教室に於て探檢に關する講義を續け來られたところであり、此の書の表面には現されなかつた右の如き觀點よりする探檢史の如きも、本書には割愛せられた東洋人殊に日本人による各地の探檢史と共に、今後に期待して然るべきものと思はれる。

附錄の「伊能忠敬先生」は、我が國科學界の先覺者たる同先生の傳記と、その測圖事業の重要意義について述べられたもの、また「蒙疆事情」は蒙疆の地勢、民族、交通、産業に就て、三日間に亙つて述べられたものである。

要するに、この書は座右に備へて便利、江湖に薦むるに好適の書であるが、唯出版の都合からか圖版及び地圖の添附せられてゐないのは遺憾の點である。（日本放送出版協會版、一六六頁、定價五拾錢）〔三上正利〕

大陸文化研究

京城帝國大學大陸文化研究會編

支那事變を契機として大陸に關する種々の著作が相繼いで公にされた。就中、政治經濟的な述作は過去四年間に汗牛充棟も啻ならざる有樣となつたが、文化に關する著作は極めて寥々たるもので些か寂寞の感がないでもなかつた。事變處理、進んでは東亞新秩序の建設に政治、經濟の役割の重要なるは勿論であるが、之と相並んで文化の果す役割も多大である。政治的、經濟的工作が表面的なるに反して、文化的工作は内面的であり基礎的である。日支兩國相互の眞の理解を助け政治的、經濟的工作の動もすれば利害相反撥するを和げて兩國の協調を可能ならしめるものはこの文化工作を措いて外にはない。隨つて文化こそは東亞の新秩序建設の成否を握る最も重要なる鍵の一つであるとも言ひ得る。この意味に於て大陸文化の認識を目標とした本書がこのたび世に出たことは誠に慶賀に堪えない。

京城帝國大學は曩に滿洲事變の直後、滿蒙文化研究會を組織して大陸に關する學術的調査に努めてゐたが、日支事變勃發を機としてこれを改組して大陸文化研究會と爲した。この昭和十四年度の事業として教授の滿洲、北支出張調査、學生の蒙疆地方派遣を行ひ、更に大陸文化講座を開催して一般に公開し大陸文化の認識に資した。該講座の講演を掛錄したものが本書である。從つて本